

「本宮方式映画教室」「こころの山脈」「秋桜」本宮は映画で満ちていた

回覧

2026年 第14回

カナリヤ 映画祭

入場
無料



「映画に込められるその時代の記憶、思い、スクリーンの向こう側、
あなたには何が見えますか」

10月4日(日)

9:30 開場

9:50 開演

10:00 『山椒大夫』

制作：日本 1954年作品 監督：溝口健二 原作：森鷗外

上映時間：2時間24分

出演：田中絹代 花柳喜章 香川京子 津川雅彦 浪花千恵子

＜1954年ヴェネチア映画祭銀獅子賞受賞＞

＜黒澤明、小津安二郎と並び昭和を代表する溝口健二監督、
その監督が昭和のスター田中絹代を起用し森鷗外原作の『山椒大夫』を製作。
完全主義と言われるその映像美をお楽しみください。＞

《昼休憩 60分程》

13:30 『片思い世界』

制作：日本 2025年作品 監督：土井裕泰 脚本：坂元裕二

出演：広瀬すず、杉咲花、清原果那、横浜流星

上映時間：2時間6分

＜話しかけても聴いてもらえない、触れたくても触れられない
そんな世界を坂元裕二の脚本と3人の女優が華やかに、そして
切なく描きます。＞

15:50 終了

【主 催】カナリヤ映画祭実行委員会 NPO本宮の映画文化を継承する会

【共 催】本宮市教育委員会

【協 賛】株式会社マインド 青木フルーツHD株式会社 東北病院・まゆみの里 株式会社関建設 株式会社渡辺孫六商店
株式会社武藤建設 株式会社レックス 田村屋本店 石橋建設工業株式会社 本宮ロータリークラブ 太陽鉱油(株)

【後 援】本宮方式映画制作の会 阿部写真館 FM Mot.com

【協 力】あじさい読書会

【連絡先】阿部写真館 TEL.0243-34-2175



会 場

サンライズもとみや

本宮市本宮矢来39-1



© KADOKAWA 1954



© 2025「片思い世界」製作委員会

2026年 第14回カナリヤ映画祭開催についてのご挨拶

カナリヤ映画祭も14回目を迎えました。良質の映画を子供たちにみせようと始まった本宮方式映画教室、その先人たちの思いを継承したいと続けてきました。さて、映画のエンディングロールはなぜこんなに長いのかと思ったことはありませんか、長いのは確かですがあれだけの人や団体が関わって映画が作られていることを実感できる瞬間でもあります。しかし、AIで映画が制作されたらエンディングロールは極端に短くなると思います。ホモサピエンスが繁栄した理由の一つに集団で一つのことを行う能力があったと聞いています。映画が面白いのはエンディングロールが長いからかも。何にも煩わされない暗闇とあなたを魅了するスクリーンの映像。どうぞ映画をお楽しみください。

本宮の映画文化を継承する会 代表 本田 裕之

《上映作品紹介》

『山椒大夫』

制作：日本 1954年作品 監督：溝口健二 原作：森鷗外 上映時間：2時間24分

出演：田中絹代 花柳喜章 香川京子 津川雅彦 浪花千恵子

平安末期、言われぬ罪を着せられしまった父と別れ、母と旅していた安寿と厨子王の兄妹は、人買いに騙され母とも別れ別れになって丹後の豪族、山椒大夫のもとに売られてしまう。それから十年、大きくなった二人は依然として奴隷の境遇のままであり、つらい労働の日々であったがある日、新しく買われてきた奴隷が口ずさむ唄に自分たちの名前が呼ばれているのを耳にする…そして異郷の地で母は「安寿～、厨子王～」と今日も呼ぶ。

監督：溝口健二（1898年5月～1956年8月）父の事業失敗から極貧のうちに幼青年期を過ごす。その間に見た女であるがゆえに虐げられた母と姉の人生が彼の映画制作の原点となる。また、幾人かの女性とのトラブルと葛藤は彼の映画に大きな影響をもたらし、後に「女性映画の巨匠」と言われる素地を作った。溝口監督は度々スランプに陥ったが『西鶴一代女』『雨月物語』『山椒大夫』（田中絹代出演）で抜け出すことができた。

女優：田中絹代（1909年11月～1977年3月）幼いころ映画女優にあこがれ、兄が松竹に勤めていた関係から入社する。日本初のトーキー映画『マダムと女房』に出演する。その後は『金色夜叉』『伊豆の踊子』『愛染かつら』などヒット作で主役を務め国民的女優となる。しかし、1949年に親善大使としてアメリカに渡り数か月後に帰国するがその変貌がもとで大パッシングにさらされる。その彼女を救ったのが溝口監督であり、出演した『西鶴一代女』『雨月物語』『山椒大夫』の三作品である。

『片思い世界』

制作：日本 2025年作品 監督：土井裕泰 脚本：坂元裕二

出演：広瀬すず、杉咲花、清原果那/横浜流星/小野花梨、伊島空、moonriders、田口トモロヲ、西田尚美

現代の東京の片隅。古い一軒家で一緒に暮らす、美咲（広瀬すず）、優花（杉咲花）、さくら（清原果那）。仕事、学校、バイト、それぞれ毎日出かけて行って、帰ったら3人一緒に晩ごはん。リビングでおしゃべりして、同じ寝室で寝て、朝になったら一緒に歯磨き。お互いを思い合いながら穏やかに過ごす、楽しく気ままな3人だけの日々。だけど美咲には、バスで見かけるだけの気になる人がいて、そのことに気がついた2人は…。

もう12年。家族でも同級生でもないけれど、ある理由によって強い絆で結ばれている3人。

それぞれが抱える、届きそうで届かない〈片思い〉とは――。

大ヒット映画『花束みたいな恋をした』から4年。ドラマだけでなく『怪物』（第76回カンヌ国際映画祭脚本賞受賞）、『クレイジークルーズ』（Netflix）、『ファーストキス 1ST KISS』など映画でも精力的に活動する脚本家・坂元裕二が新たに書き下ろした本作。監督を担うのは、第44回日本アカデミー賞にて計11部門で優秀賞を受賞した『罪の声』や異例のロングランを記録した『花束みたいな恋をした』監督の土井裕泰。